

体調不良者や乳幼児、妊娠されている方、高齢者など、案内を優先する人を周知する。

5. 体調不良者の対応

体調不良者の誘導は、外靴の場所は職員B屋外担当、靴を脱いだあとは職員Aリーダーが誘導することとして確実な引継を徹底する。

体調不良の申し出を受けた場合は、一旦、体調不良者専用室へ誘導し、2名以上となる場合は、室内では人と人との間隔を2メートル以上離れるよう声掛けする。

体調不良者専用室には早めにストーブなどを準備し、こまめに様子を確認するとともに災害対策本部に報告する。

具体的なやりとり例

職員B屋外担当（職員Aへ）

「屋外の安全確認が終わりました。外見上、体育館と廊下に破損はありません。」

職員Aリーダー（職員Bへ）

「分かりました。安全確認が終わりましたので、間もなく、誘導を開始します。」

「受付手順表を見ながらメガホンで誘導手順を呼び掛けてください。」

「特に、具合の悪い方は待たせずに、前に出てきた時点で、すぐ別室に誘導して構いません。」

「誘導は、小さいお子さん、妊娠されている方、高齢の方、お手伝いが必要な方を優先して案内してください。」

「私は、体育館ルートの最終確認に行ってきます。戻ったら誘導を開始します。」

職員B屋外担当（避難者へ）

「〇〇市役所です。全員避難所に入れますので、落ち着いて行動してください。」

「今、最終確認をしていますので、先に誘導手順を説明します。」

「まず、具合の悪い方を先に誘導するので、私のところまで来てください。いませんか?」

「次に、小さいお子さん、妊娠されている方、高齢の方、お手伝いが必要な方がいる世帯を誘導します。私のところまで来てください。」

「それでは、誘導手順を説明します。」

【誘導手順】

- ① 「入口はこちらです。ドアは〇箇所あります。」
- ② 「世帯毎に進んでください。」
- ③ 「玄関は混み合いますので、あらかじめ雪を落として靴を脱ぐ準備をしてください」
- ④ 「入口ではアルコール消毒してマスクを着用してください。入口に予備マスクがあります。」
- ⑤ 「検温は、体育館で実施します。」
- ⑥ 「体調不良の方は別室に誘導します。職員に声を掛けてください。」
- ⑦ 「避難者名簿の記載は、体育館で行います。」
- ⑧ 「体育館で世帯番号カードを配ります。世帯で1枚受け取ってください。」
- ⑨ 「外靴は廊下に置いてください。廊下にスリッパがあります。」
- ⑩ 「体育館まで誘導の灯りがあります。足下に気を付けて移動してください。」

職員Aリーダー（最終確認終了後、協力者2組目へ）

「これから誘導を開始します。」

「私は、最初は玄関にいますが、体調不良の方がきましたらここから離れますので、2組目の方はここで避難者の誘導案内を続けてください。」

職員Aリーダー（職員Bへ）

「それでは誘導を開始してください。」

職員B屋外担当（協力者3組目へ）

「3組目の方は、車で待機している方に避難所への誘導を開始したことを伝えてきてください。」

職員B屋外担当（避難者へ）

「それでは誘導を開始します」

※【誘導手順】を繰り返し説明

職員Aリーダー（玄関屋内で避難者へ）

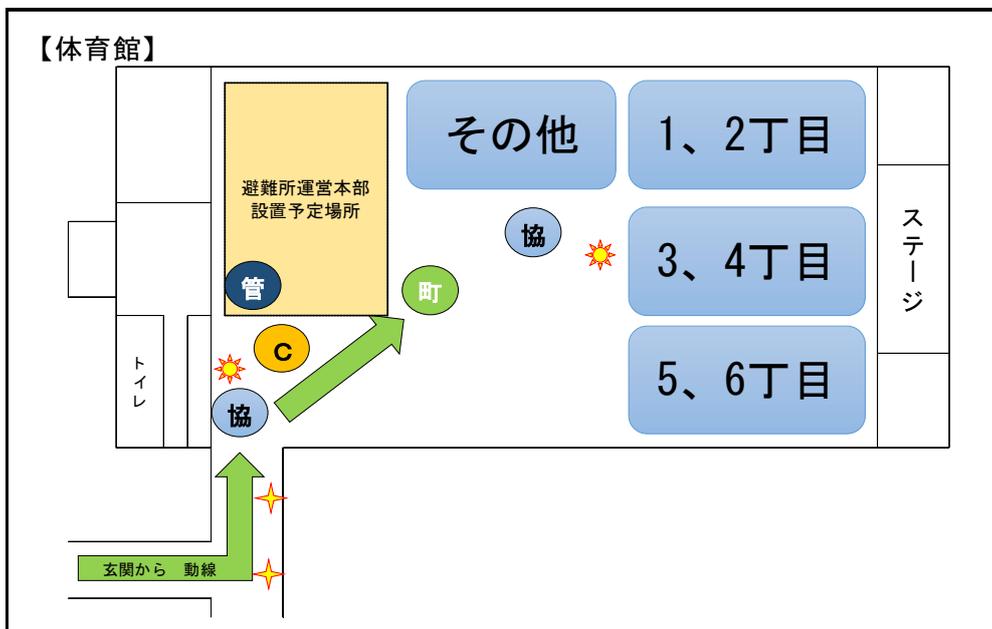
※【誘導手順】の⑤から⑩と同じ

- ⑤「検温は、体育館で実施します。」
- ⑥「体調不良の方は別室に誘導します。職員に声を掛けてください。」
- ⑦「避難者名簿の記載は、体育館で行います。」
- ⑧「体育館で世帯番号カードを配ります。世帯で1枚受け取ってください。」
- ⑨「外靴は廊下に置いてください。廊下にスリッパがあります。」
- ⑩「体育館まで誘導の灯りがあります。足下に気を付けて移動してください。」

検証1 ⑦体育館での誘導

状況

体育館での誘導は、職員C屋内担当、町内会長、協力者1組目が対応
発電機、照明、ストーブの準備として、施設管理者が待機
照明は、電池ランタンが体育館入口及び中央に1個ずつのみ



世帯番号カードの配布



体育館内での誘導

手順 体育館での誘導

1. 感染防止の声掛け

避難所のルールとして「アルコール消毒」、「マスク着用」、「世帯毎2m間隔」といった感染防止の声掛けを実施する。

2. 世帯番号カードによる世帯数の把握

間口の狭い玄関ではなく体育館の入口付近で連番を付した世帯番号カードを配布し、受入世帯数を把握する。

(※末尾 開設2 「世帯番号カード」参照)

3. 地区ごとの待機場所の指定

体育館内の待機スペースを条丁目や地区ごとに指定し、可能な範囲で隣近所といった顔見知りが集まるように考慮する。

具体的なやりとり例

職員C屋内担当（町内会・協力者1組目へ）

「私が入口で世帯番号カードを配りますので、地区ごとにまとまって待機するように案内をお願いします。」

「具体的には、1、2丁目はステージの左側、3、4丁目はステージ前、5、6丁目は、ステージ右側、その他の地区は入口と反対側にしましょう」

「トイレは、体育館玄関の左側にあります。水は出ますが暗いです。スリッパと簡易照明を置いていますが、後ほど、照明を準備します。」

職員C屋内担当（避難者へ）

「体育館は、こちらです。」

「出入口でアルコール消毒をお願いします。」

「こちらが世帯番号です。世帯で1枚となります」

「体育館では隣の世帯と2m空けてください。」

「たくさんの方が避難されます。待機場所は、広くしすぎないでください。」

「照明やストーブを準備するので、それまで待機してください。」

町内会・協力者1組目（世帯番号を受け取った避難者へ）

「1丁目と2丁目の方は、ステージに向かって左手側付近に待機してください。」

「3丁目と4丁目の方は、ステージ正面付近に待機してください。」

「5丁目と6丁目の方は、ステージに向かって右手側付近に待機してください。」

「具合の悪い方がいましたらこちらに声を掛けてください。」

「隣の世帯とは2mを空けてください。」

専門家の指導

1. トイレの場所、使用方法の周知

トイレを我慢している避難者も多いため、誘導を開始した時点でトイレの場所、使用方法等についても周知が必要である。

特に「水で手洗いができるか」、「和式か洋式か」、「照明は付いてるか」、「トイレ専用スリッパを使用するか」などについて周知するとともに、衛生管理、感染防止の観点からできるだけ早期に改善を図る必要がある。

検証1 ⑧体育館の環境整備

状況

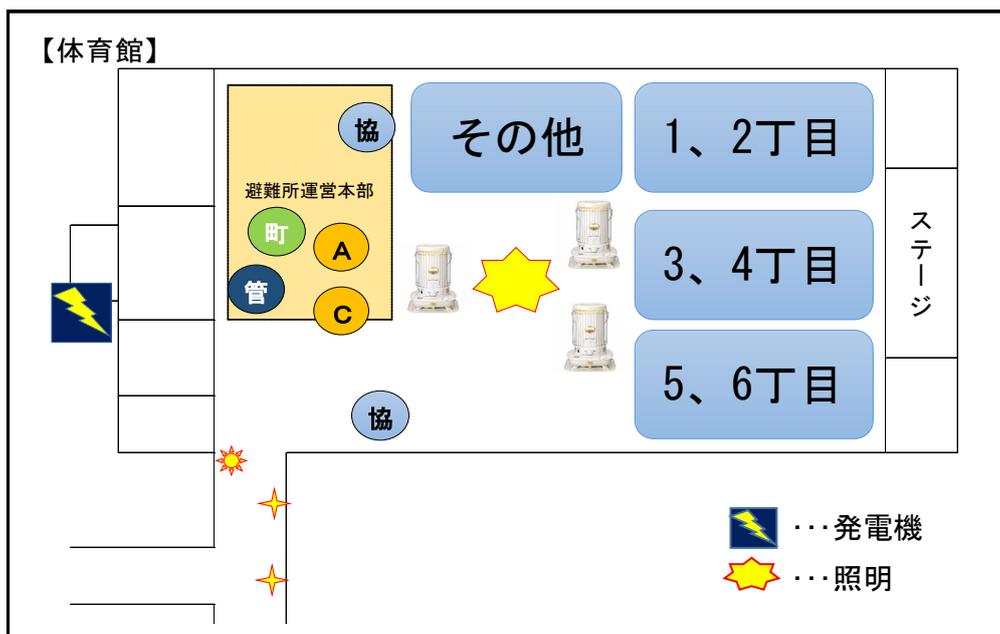
屋外の避難者を全て体育館内に誘導。

職員は、玄関に1名常駐、体育館に2名配置

体育館の照明はランタン1個のみ

発電機、照明、ストーブなどの防災資機材は、施設内の物品庫に保管

施設管理者が体育館に待機している。



手順 避難所の環境整備

1. 施設管理者との連携

施設管理者と連携し、台車の借用など防災資機材の搬送や設置の協力を依頼する。

2. 避難者の協力依頼

安全な避難所環境を整えることを優先し、発電機や照明の搬送などマンパワーが必要な作業には避難者から協力者を募る。

3. 電源、照明、ストーブの設置

まずは電源と照明を設置して安全に作業ができる環境を整えてからストーブへの給油などを実施する。

なお、安全が確保できれば、同時に設置を開始しても良い。

4. 火災予防の徹底

停電のため、火災報知器や消火設備が正常に作動するか分からないため、ストーブや発電機を準備するときは火災防止を徹底するとともに、体育館や廊下には一定間隔で消火器、消火設備が設置されていることから、あらかじめその位置を確認する。

具体的なやりとり例

職員Aリーダー（施設管理者へ）

「これから、発電機、照明、ストーブを準備するので、台車をお借りできますか？」

「物品庫での作業となりますので、教頭先生もご協力をお願いします。」

職員Aリーダー（避難者へ）

「これから、発電機と照明を運ぶので、皆さんから10名くらい御協力をお願いします。」

職員Aリーダー（協力者10名へ）

「ご協力ありがとうございます。まず、停電しているので照明を確保します。」

「この中で避難所開設訓練の経験者はいらっしゃいますか？」

「訓練と同じ流れで準備します。」

「作業手順は、最初に台車を使用して物品庫から発電機、電源ドラム、照明を体育館に運びます。」

「次に、屋外に発電機を設置して体育館に電源ドラムを引き込みます。」

「最後に、体育館の照明まで電源を延長して灯りを付けます。」

「照明が終わりましたら、体育館にはストーブ、玄関には照明を設置します。」

「停電していますので、くれぐれも作業中の火災予防の徹底をお願いします。体育館と廊下に消火器が設置してありますので、どこにあるか確認しておくようにお願いします。」

職員Aリーダー（施設管理者、協力者10名へ）

「班分けですが、避難者の方は、2名ずつペアで活動していただきますので、今、隣の方と組になってください。」

「まず、発電機は体育館の玄関先の屋外に設置します。」

「1組目の方は、外靴を持ってきて体育館の玄関で待機してください。」

「次の組の方は、教頭先生と一緒に台車を物品庫まで運んでください。」

「残りの方は、職員と一緒に物品庫で発電機、電源コード、照明を運ぶ準備をお願いします。」

「まずは発電機から運んできてください。」

「照明、ストーブの搬送が終わりましたら、最後にアルコール消毒液、フェイスシールド、非接触体温計などの感染防止セットもこちらに持ってきてください。」

専門家の指導

1. 避難所の安全、安心の確保

検証では、迅速な誘導を優先したため、体育館内にはランタンが1個の状態であった。

避難生活の治安、安全を保つ上で照明の確保は欠かせない要素であり、照明を灯すことは避難者の安心にもつながることから、迅速な電源、照明の確保は非常に重要である。

2. ストーブの設置

ストーブには、火災予防のための離隔距離が決められており、本体のシールや取扱説明書に示されている。

また、ストーブへの給油は、灯油の確認や消火してからの給油、油漏れに注意するなど、火災予防を徹底すること。

3. 一酸化炭素中毒の防止のための換気の徹底

ポータブルストーブ等、開放型（煙突が無く、燃焼したガスがそのまま屋内に滞留するタイプ）のストーブを使用する場合は、一酸化炭素中毒の防止を目的とした換気が必須である。

同時に、発電機から発生する一酸化炭素にも十分気をつける。

4. 停電に伴う水道管の凍結防止

電気パネルヒーターやテープヒーターなどで水回りの凍結を防止している施設では、停電に伴って水道管が凍結する恐れがある。

照明やストーブなど環境が整った時点で、改めて施設管理者に施設のライフラインの点検を依頼し、水回りの凍結の恐れがある場所にストーブを設置したり、蛇口を緩めて水を少しずつ流し続けるなど、できる範囲での凍結防止と避難所としての機能維持を図る。

5. ブルーシートによる衛生環境の悪化

ブルーシートには保温性やクッション性は無く、逆にブルーシートを敷いた場合、泥や雪などで床が濡れても清掃できないため、衛生環境が悪化するほか、ガサガサと歩行音が大きくなることから、居住スペースへの設置は推奨しない。

また、過去の災害では、体育館にブルーシートを敷きつめて土足で使用したため、段ボールベッドが手配できてもすぐに設置できず、ブルーシートを全て外し、床の泥汚れを全て水拭きし、消毒してから段ボールベッドを設置したため、長時間を要することとなった。

5. 避難者名簿の作成手順の説明

- ①受付要員の感染防止
- ②世帯代表1名による受付
- ③受付ブースの指定
- ④世帯番号カードによる呼び出し
- ⑤避難者台帳の聞き取り、記載
- ⑥避難者名簿、健康チェック表、クリップペンシルの配布
- ⑦職員による名簿回収と回収時の世帯全員の検温

具体的なやりとり例

職員Aリーダー（避難者へ）

「避難所開設の御協力ありがとうございました。」
「この避難所でのコロナ対策やルールについて説明します。」

（避難所ルールの説明）

「まず、こちらの掲示板に、この避難所のルールを表示しています。」
「食事や消灯時間は、決まり次第、アナウンスしますが、今後、災害情報や避難所運営本部からのお知らせは、こちらにも表示します。」
「特に段ボールベッドが運ばれたときには皆さんの協力が欠かせませんので、こちらの段ボールベッド導入手順について、密を避けて交替で確認をお願いします。」

（感染症対策ルールの説明）

「次に、避難所でのコロナ対策のルールが3点あります。」
「1つ目は、手の消毒です。
体育館の出入口にアルコール消毒液を設置したので、通るときには手の消毒をお願いします。」
「2つ目は、マスクの着用です。
避難所の中では常時マスクを着用してください。予備のマスクも用意していますので、必ず着用をお願いします。」
「理由があってマスクを付けられない方は、こちらで確認しますので、職員まで声を掛けてください。」
「3つ目は、世帯間隔は2mです。
待機場所では、世帯間の距離を2m空けるようお願いします。」
「体調の悪い方は、別室に誘導しますので、職員まで声を掛けてください。」
「お願いします。」

（避難者受付の説明）

「避難者名簿を作成します。」
「これから作成する名簿を元に、皆さんの食事や支援物資を手配しますので、必ず受付をしてください。」
「体育館でお配りした世帯番号カードでは、この中に45世帯ほどいますので、名簿作業のため、どなたか5名の方、ご協力をお願いします。」

職員Aリーダー（協力者5名へ）

「ご協力ありがとうございます。」
「まず、こちらをお配りします。」

（避難者台帳を配布）（※末尾 開設5、6、7 参照）

「これから、世帯番号を順番に呼び出しますので、皆さんは、避難者からこの用紙の内容を聞き取って記入してください。」

「会話がありますので、必ずマスクとフェイスシールドを着用してください。」

（机上の避難者名簿、健康チェック表、クリップペンシルを設置）

「各机には、避難者名簿、健康チェック表、クリップペンシルが置いてあります。」
「聞き取りが終わってから、避難者の方に1つずつ取り、待機場所に戻ってから記載するよう説明し

てください。」

「もし、体調不良の人がいましたら別室に誘導しますので、手を上げて私にお知らせください。」

「避難者名簿の回収は、後ほど職員が検温をしながら行います。」

「その他、迷うことがありましたら、手を上げて私に知らせてください。よろしくお願いします。」

職員Aリーダー（体育館避難者へ）

「ではこれから受付を開始します。」

「手順は、まず、世帯番号順に呼び出しますので、呼ばれた世帯の代表者1名は、カードを持ってこちらに並んでください。」

「次に、こちらで、世帯番号、代表者のフルネームなどを聞き取ります。」

「最後に、避難者名簿と健康チェック表とクリップペンシルを1つずつ持って、今、待機している場所に戻って記載してください。世帯番号カードはそのままお持ちください。」

「後ほど職員が名簿の回収に回ります。そのとき、非接触体温計で検温を実施します。」

「体調の悪い方がいましたら、別室へ案内しますので、私に声を掛けてください。」

「では、受付場所を説明します。」

「この机は01番から10番までです。あとは、順番に

この机は11番から20番まで、この机は21番から30番まで、

この机は31番から40番まで、この机は41番以上の番号

このように受付を行います。」

「では、混雑を防止するため順番に呼び出しますので、番号が呼ばれた世帯から1名の方は、世帯番号カードを持って、こちらに来てください。」

「まず、世帯番号1番はこちらをお願いします。」

「11番の方は、こちらをお願いします。」

「21番の方は、こちらをお願いします。」

専門家の指導

1. 感染防止の徹底

避難所の受付など、多くの避難者と一定の時間会話する場合は、相互にマスクを付けることはもちろん、可能な範囲でフェイスシールドやビニールカーテン、アクリル板などを使用し、飛沫の防止を図る必要がある。

また、感染防止のルールは、繰り返し周知するほか、不適切な避難者には協力の声掛けをするなど、形式で終わらせず実効性を確保することが必要である。

2. 段ボールベッドの設置準備

現在、段ボールベッドやパーティションの備蓄が進んできており、早い段階で避難所に運び込まれる体制が整いつつある。

今後は、避難所に段ボールベッドが運び込まれた際にいかにスムーズに設置するかが重要であり、あらかじめ避難者に、どのような手順で設置されるかを周知するなど、受入側の準備を整えておくことが重要である。

3. 避難所の表示物の事前準備

避難所マニュアルのレイアウトに従って立入禁止や更衣室などの表示物をあらかじめ印刷しておき、可能であれば、表示物に一連番号を付してレイアウト図とリンクさせることで、避難所の建物を初めて見た職員でも番号通りに間違えることなく表示できる。

4. 避難所運営への女性の参画

避難所運営に住民の協力を依頼する際は、積極的に女性の参画も促し、避難所運営に多くの視点を取り入れる体制を確保することにより、誰もが過ごしやすい環境を整える必要がある。

5. 避難所ルールの修正

起床時間や配食の方法、携帯電話の充電など、避難所のルールは、状況に応じて修正することが必要である。

特に清掃や消毒など負担の大きい作業は、当番を決めるなど、避難者に不公平感の無いように避難所運営本部が中心となってルールを決める必要がある。

(※末尾 開設8、9、10 参照)

参考 (ローラーコンベア)

避難所の限られた人数で段ボールベッドを複数台搬入する際、ローラーコンベアを使用することで玄関前の階段や段差、体育館までの長い通路などを効率的に搬送することができる。

収納・展開状況	段ボールベッド搬送状況
	

検証1 ⑩非常用電源の確保

状況

検証で設置した非常用電源

- ①発電機
- ②電気自動車（PHEV）
- ③燃料電池車（FCV）+給電機

参考：ポータブルバッテリー

発電機の説明

 <p>発電機とガソリン携行缶</p>	<table><tbody><tr><td>定格出力</td><td>1. 6kva</td></tr><tr><td>燃料タンク容量</td><td>3. 6L</td></tr><tr><td>乾燥重量</td><td>20. 7kg</td></tr></tbody></table>	定格出力	1. 6kva	燃料タンク容量	3. 6L	乾燥重量	20. 7kg
定格出力	1. 6kva						
燃料タンク容量	3. 6L						
乾燥重量	20. 7kg						
 <p>防寒手袋での給油</p>	 <p>発電機の始動</p>						

1. 燃料（ガソリン）の取扱と調達

ブラックアウトを経験し、道内では発電機の備蓄が進んでいるが、燃料となるガソリンの調達も合わせて検討しておく必要がある。

ガソリンは、マイナス40℃でも気化し、爆発的に燃焼する危険物であり、長期の備蓄も向かない。避難所の発電機を動かすには、停電対応のガソリンスタンドで携行缶にガソリンを給油し、避難所に搬送する必要がある。

災害時でも優先的に燃料を調達できるよう関係機関と協定を結んでおくことも有効である。

2. 夏と冬の違い

電源の確保として発電機の備蓄が進んでいるが、注意する点としては、夏と冬の違いがある。

冬は、厚手の手袋を履いており、手袋を脱いだ場合は凍える手でエンジンオイルやガソリンを入れなければならないため、真冬での訓練も必要である。

3. 排気ガスの注意

発電機の排気ガスには、有毒な一酸化炭素が含まれており、命に関わる事故につながる。

発電機は、排気ガスがこもる場所（風除室、車庫、車両内など）での使用は絶対に禁止し、出入口や窓から排気ガスが流入しない場所に設置しなければならない。

4. 適切な設置場所の選定

発電機は防水ではないため、落雪や風雨にさらされる場所には設置できないことから、事前に設置場所を検討しておく必要がある。

5. 稼働時間の確認と給油

発電機の燃料タンクの大きさによっては、終夜運転ができず、夜間に給油を必要とする場合もあることから、適宜、燃料の残りを確認する必要がある。

燃料切れで突然、発電機が止まった場合、電気製品に不具合が生じる恐れがあることから、給油する際は、あらかじめ避難所内の照明、暖房など、接続機器を一旦停止してから発電機を停止し、給油しなければならない。

特に発電機への給油作業中に引火して火災が発生した事例もあることから、必ずエンジンを停止して、取扱説明書の手順に従って給油する必要がある。

6. 発電機の始動要領（例）

防災訓練などで実際に発電機に給油したり、操作方法を経験しておくことが重要。

- ①「周囲の安全よし」 ～ 発電機の周囲に枯れ草など燃えやすい物や建物の近くではないか
- ②「燃料・オン」 ～ 燃料タンクの蓋のレバーや燃料コックがオンになっているか
- ③「チョーク・始動」 ～ エンジンが暖まっていないときは、チョーク弁を始動に切り替える。
- ④「スイッチ・オン」 ～ エンジンスイッチを「オン」にする。（停止する場合はオフ）
- ⑤「グリップを引くので、離れてください」 ～ 近くの人とぶつからないように声を掛ける。
- ⑥「チョーク・運転」 ～ エンジンが始動したら、チョーク弁をゆっくり戻す。

※ 詳しくは取扱説明書を確認すること。

ハイブリッド車（PHEV）の説明

	<p>電源 100V 最大出力 合計1500wまで 後述「給電機」との接続も可能</p>
--	--

1. ガソリン（ディーゼル）自動車からの給電

ガソリン（ディーゼル）自動車のシガーソケットを家庭用電源に変換する製品はあるが、エンジンの発電量よりも使用量が多いと、エンジンを掛けっぱなしであってもバッテリーが上がってしまうことがある。

2. ハイブリッド車（PHEV）からの給電

1500wの電源として使用できる。

発電機のような始動の作業は必要なく、避難所に到着したらすぐに電源を確保でき、発電機よりも燃料タンクが大きいので、満タンであれば夜間も停止することなく給電できる。

ただし、ハイブリッド車（PHEV）も、発電のためにエンジンが始動し、排気ガスが出るため、車庫では使用できず、換気用の窓の位置も確認して駐車場所を決める必要がある。

燃料電池車（FCV）の説明

	<p>電源 100V 最大出力 合計1500Wまで</p>
	<p>車内パネル表示 外気温 『-10℃』 消費電力 『0.7kw』 使用可能時間 『34時間』</p>

1. 燃料電池車の排気ガス

燃料電池車（FCV）の排気ガスは、水蒸気のみであり、一酸化炭素中毒のリスクはない。

2. 供給スタンド

燃料となる水素の供給スタンドが少ないため、供給スタンドまでの走行距離を確認しておく必要がある。

水素燃料が切れた場合は、キャリアカーで搬送する必要がある。

給電機の説明

	<p>FCVと給電機を接続した状況。 写真のもやは、FCVの「水蒸気」 給電機から排気ガスが出ることはない。</p>
	<p>検証では、体育館に電力を供給した。 電下ドラムコードを使用して、1500w×4本 を体育館内へ引き込んだ。 (ダクトヒーター2台、業務用加湿器1台 シートライト1枚、電気毛布4枚、)</p>

1. 高い給電能力

電気自動車（PHEV）や燃料電池車（FCV）から1500ワットを6本、合計9キロワットの給電能力を有するため、一般的な避難施設の十分な電力をまかなうことが可能である。

2. 据置型のメリット

可搬型と据え置き型の2種類あるが、据置型の場合は施設への給電ができるため、施設自体の暖房稼働させることも可能であることから、大規模停電であっても通常と同じ避難所を開設できる。

参考：ポータブルバッテリー

検証では、機器を接続しなかったが、携帯電話の充電や体調不良専用室での電気毛布への給電を想定した。

	<p>容量 137700mAh／500wh AC電源 2口 USB出力 3口 充電 家庭用電源、シガーソケット、 ソーラーパネル</p>
---	--

1. 操作が単純ですぐに使用可能

電源オン、オフスイッチのみで、すぐに使用が可能。

2. 定期的な充電が必要

自然放電するため、定期的な充電が必要。